

アジスロマイシンは心臓血管病による死亡のリスクを増すことに無関係

アジスロマイシンを心臓血管病によって死亡するリスクの高い患者に使用すると、死亡のリスクが増すとされている。しかし、選別されていない一般集団にもアジスロマイシンが同様の影響を及ぼすかは知られていない。

デンマーク全国の成人（18～64歳）を対象に、1997年から2010年までの期間、処方薬、死因、患者の特徴を調査した。心臓血管病による死亡率を、1102050件のアジスロマイシン使用群と2204100件の抗生剤不使用群で比較し、また、1102419件のアジスロマイシン使用群と7364292件のペニシリンV（類似の効能の抗生剤）使用群でも比較した。

その結果、抗生剤不使用の場合と比較して、アジスロマイシン使用（5日間の服用とした）により心臓血管病による死亡のリスクは有意に高かった（比率は2.85倍）。アジスロマイシン使用とペニシリンV使用を比較したところ、アジスロマイシン使用で心臓血管病による死亡のリスクが高まることはなかった（比率は0.93倍）。

したがって、若年および中年の一般成人集団においては、アジスロマイシン使用により心臓血管病による死亡リスクが増すことはなかった。

出典：New England Journal of Medicine 2013; 368: 1704-1712